

子どもアミーゴ西東京



にちじ：2011年9月18日（日）11:00～14:00

ばしょ：向台公園（東京都西東京市向台町2丁目）

主催：特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京

《はじめに》

今年もやって来ました“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”。

元気いっぱい子どもたち、思いっきり子どもたちと遊ぶ理事さんや指導員の皆さん、いっしょになって楽しんでいる保護者や地域の人たちを拝見するのが、とても楽しみです。

毎回申し上げますが、“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”は・・・

◎NPO法人子どもアミーゴ西東京や、6つの学童クラブ、それにひばりが丘児童センターを地域の人たちに「みせ」る場であること。

◎自分たちの力で“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”を築き上げたこと。その信念を貫いていること。

◎信念を貫いている一方で、人の話を聞くという謙虚さも持ち合わせていること。

という3つの特徴があります。

さらに今年は、東日本大震災が発生したこともあって、ほかの地域との交流を展開し始めました。いち早く、被災地子どもたちへの支援に動き出したり、4月にはほかの地域（福島県会津若松市）で初めて“だがしや楽校”を開いたりしました。

今年（2011 年）4 月より事業拡大した子どもアミーゴ西東京は、新たに2つの学童クラブとひばりが丘児童センターの運営を始めました。

このように、ますます発展するNPO法人子どもアミーゴ西東京。今年の“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”も同様に、ますますスケールアップしました。

それは、私（山口）が会場の向台公園に着いて、すぐにわかりました。会場が1年前より広くなったからです。それだけおみせの数も増えました。

向台公園に着いたのは午前10時10分頃。まだ“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”のスタートまで時間があります。それでも、準備している様子を見て回っているだけで、お腹いっぱいになりそうです。だから、3時間の“だがしや楽校”の中で取材しきれるか、チョッピリ心配になりましたが、ここは深く考えず、じっくり楽しみながら取材することにしました。



朝から澄んだ青空が広がっています。暑くなりそうですが、向台公園は、緑いっぱいの公園です。セミも鳴いています。気持ち良い暑さにも感じます。



そんな絶好のお天気の下、午前11時、“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”が始まりました。

今回は、NPO法人子どもアミーゴ西東京などの紹介は割愛させていただき、早速、この日の“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”の模様をご紹介しますまいりましょう。



2011 年 9 月 18 日（日曜日）西東京市の天気：晴れ

《開会セレモニー》

午前11時から開会セレモニーが行われました。NPO法人子どもアミーゴ西東京・代表理事の

菊池宇光さんの挨拶です。

これから“だがしや楽校”を始めます。子どもアミーゴ西東京はすべての子どもたちが笑顔で暮らせるまちを目指してがんばっています。毎年9月の連休に合わせて“だがしや楽校”を行っていて、今年で4回目になります。“だがしや楽校”は山形県で生まれたイベントで、自分を「見せ」る「お店」を出して、いろんなことをします。きょうは向台公園にいろんな団体や人たちが集まっているいろんなブースを作っていますので、皆さんも楽しんでください。



あときょうは、私たちが支援をしている震災で被災されたいわきの人たちのブースもありますので、立ち寄ってみてください。今年の夏休み、いわき市から四倉児童クラブの人たちが東京に遊びに来てくれた時に私たちもいっしょに支援させていただき、3日間いっしょに過ごすことができました。これからも長く支援していきたいと思っています。

きょうは暑いので水分を取りながら1日楽しんでください。

続いて、東京都立田無高校・ダンス部の生徒さんによるダンスパフォーマンスです。



田無高校は、向台公園から西へ1キロメートルあまりの西東京市向台町5丁目にあります。全日制課程・普通科の高校です。開校は1985年。生徒数は1000名を超えるそうです。

きょうは、開会セレモニーと閉会前にダンスパフォーマンスを披露したほか、フリーマーケットのスタッフとしても活躍されました。

それでは先に、フリーマーケットのおみせをご紹介します。

▼フリーマーケット・うれしいショップ・・・ひばりが丘児童センター



皆さんから集められた手作りの品、洋服、小物、おもちゃなど販売しています。売上は、被災地支援に充てられます。



このように1日大活躍してくださった田無高校の生徒さんには、高橋ヨシエさん（理事・山形県白鷹町出身）から“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”の名物“アミーゴ焼き”のプレゼントがありました。

▼受付



開会セレモニーが終わり、受付が始まりました。

受付では、カードをもらいます。カードの片面には、遊びのおみせを体験しますと、スタンプを押してもらいます。裏面には、“子どもジョブ”で見つけたお仕事をしますと、ポイントがゲットでき、スタンプを押してもらいます。ポイントやスタンプを集めると、駄菓子屋で駄菓子と交換できます。

“子どもジョブ”は、去年の“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”から取り入れました。お仕事の内容は、各おみせの手伝いのほか、呼び込み、水まきなどでした。

それでは、各おみせをご紹介します。はじめは、子どもアミーゴ西東京に関係する地域の人たち・団体によるおみせです。

▼アトリエ『いまじなしおん』

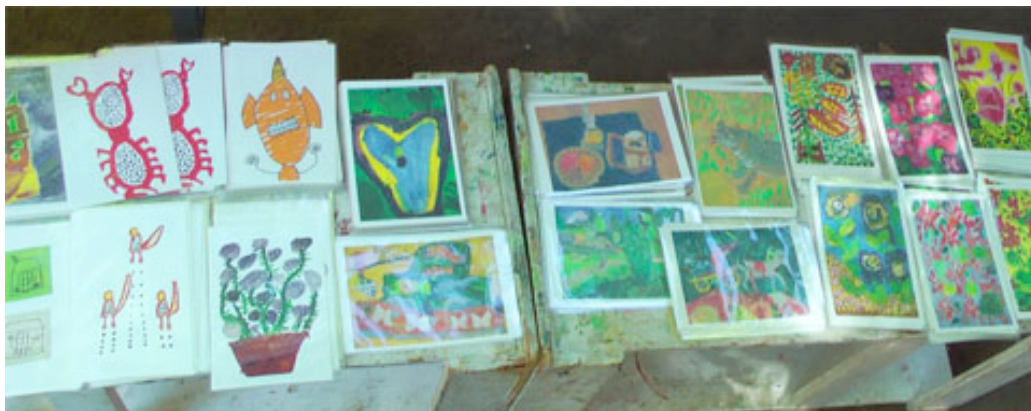
ホームページ：<http://imajina.web.fc2.com/>



昨年が続いておみせを出しました。Sさんが「憶えていますか？」と私に声をかけてくださいました。もちろん憶えています。



今回はTシャツにポストカードを販売していますが、今年はTシャツに子どもサイズも加わりました。



「子どもの創造性を伸ばすお手伝いをします」というアトリエ『いまじなしおん』は、武蔵野市関前にて、水彩・油絵・工作・焼き物・木工作などの教室を開いています。

▼西東京市子育てガイドブック

こちらでは“西東京市子育てガイドブック”を1冊300円で有償配布しています。売上の一部は東日本大震災の義援金として“ひろば全協”へ寄付します。



“西東京市子育てガイドブック”は、西東京市に住んでいる0歳～就学前の子どもを持っているママたちが協力して、取材し、レイアウトして作ったものです。子どもが行ける遊び場のガイドブックになっています。

私のインタビューの答えてくださったのは、おみせ番をしている“西東京子育てコム”のTさんです。

ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/mother/>

▼パン屋さん・・・風のすみか

天然酵母の美味しいパンを販売しているのは、コミュニティ・ベーカリー“風のすみか”。

スタッフの人にインタビューしたところ、「NPO法人文化学習協同ネットワークと連動したパン屋さんで、アミーゴとも関わりがあるので出店しました」とのことでした。

NPO法人文化学習協同ネットワークは、子どもの発達支援や若者の自立支援に取り組んでいます。社会になじめない若者たちへの支援も行っています。

その内、子どもの発達支援では、フリースペース“コスモ”を開設しています。その“コスモ”にやってくる不登校の子どもたちのおかあさんたちが奮起してオープンしたのが“風のすみか”。若者たちと成長することを大切にしているパン屋さんです。三鷹市にあります。



“風のすみか”のパンの原材料を作っている“ニローネ・風のすみか農場”は、顔が見える関係の中で安心・安全の野菜づくり、環境にやさしい循環型農業を実践しています。神奈川県相模原市緑区にあります。

コミュニティ・ベーカリー“風のすみか”や“ニローネ・風のすみか農場”は、若者の仕事を作るというコミュニティビジネスでもあります。

NPO法人文化学習協同ネットワークでは、三鷹市とNPO法人みたか都市観光協会と協働で三鷹市観光・情報スポット“風の駅”を運営、その中に最近“Café 風のえき”をオープンしました。

ホームページ：<http://www.npobunka.net/bakery/>

▼あそぼうパン・・・くるみえ



パン生地（発酵させたもの）を、アルミホイールをまいた竹の棒に、斜めに巻き付けます。それを炭火にかざしてこんがりと焼きますと、パンの出来上がり！



おみせを出された“くるみえ”は、西東京市や近郊で子育て中のママたちが「同じ地域のママたちと助け合って一緒に子育てしたい！」「同じママの何か役に立てることはないかしら？」と思い「ママ応援サポーター養成講座」を受講したママたちが立ち上げた集まりです。

“くるみえ”の由来は、包む（くるむ）、来る、見える、胡桃（くるみ）のメルヘンなイメージからです。

主な活動は、公民館などで「子育てサロン」を開催しています。やり始めたばかりですが、話し合う機会のないおかあさん同士の話し合いの場として開いています。主にマンションに住んでいるお子さんとおかあさんに来てもらっています。

▼想ひ出屋（おもひでや）・・・西東京芸術文化市民協議会

西東京芸術文化市民協議会のＹさんのおみせです。

「革であなたの想ひ出をかたちにしましょう」というおみせで、革でキーホルダーやストラップなど作ります。ちょっとだけ難しいようで、子どもたちが真剣に取り組んでいます。

子どもアミーゴ西東京のスタッフからは「前回よりもパワーアップしましたね」と冷やかされていましたが、人気のあるおみせでした。



さて、Ｙさんですが、ボランティアコーディネーターとして活躍しており、東日本大震災ではいち早く被災地に赴き、ボランティアセンター開設に尽力されました。この日もＹさんは、陸前高田市から戻ってきたばかり。この“だがしや楽校”が終わると、歴史的豪雨に見舞われた和歌山県に赴くそうです。

というわけで、しばらくＹさんと、災害とボランティアについて談義することになりました。そこでお聞きしたのは、「本当のボランティアコーディネーターとは・・・」でした。今回の大震災では、ボランティアコーディネーター不足が問題となりました。また、ボランティアコーディネーターと称しながら、その役割を果たしていない事例も報告されています。

これについてＹさんは、「被災地・被災者とボランティアをつなぐだけではボランティアコーディネーターとは言わない。現状を把握したら、何をするかを細かく仕込んでいくのがボランティアコーディネーター。その役目を果たしていないので、被災地・被災者はボランティアを求めているのに、ボランティアの仕事は無くなったということで、帰ってしまう例が出てしまう」と言います。さらにＹさんは「被災地ではテレビに映されない場所・映してはいけない場所がたくさんあります。でも、そこは権利関係で手が付けられません。まだまだ復興には程遠い」とも言います。

実際に被災地現場で活動しているＹさんの言葉は重いです。

続いて、飲食関係のおみせをご紹介します。

▼ポップコーン

“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”ではお馴染みになったポップコーンのおみせです。



豆をむく作業では、子どもたちもお手伝いしています。

トウモロコシを生産しているのは、西東京市で農業一筋に活動している中村さんです。中村さんも“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”にはとても関係深い方です。

▼わたあめ

今年も、“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”開始早々長い列ができた“わたあめ”は、いつも人気です。



▼名物！アミーゴ焼き



もはや“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”では重鎮的存在と言える“アミーゴ焼き”。

今年も日本NPOセンターのSさんが中心となり、“アミーゴ焼き”を『製造・販売』していました。言うまでもなく飛ぶように売れ、完売です。

キャベツを使って作るお好み焼きが“アミーゴ焼き”です。



▼玉こんにゃく



今回は、山形名物“玉こんにゃく”のおみせまで登場！ 材料の玉こんにゃくは、本場山形から仕入れたそうです。



▼みんなでつなげよう東北への想い

正午すぎ、福島県いわき市の四倉児童クラブを紹介する時間が設けられました。紹介は“みんなでつなげよう東北への想い”のおみせ前で行われました。

高橋ヨシエさん（NPO法人子どもアミーゴ西東京理事、三多摩学童保育連絡協議会副会長、元全国学童保育連絡協議会副会長）が、全国学童保育連絡協議会からの依頼で福島県いわき市を訪問したのが6月でした。

いわき市では毎月、児童クラブ（いわき市では学童保育所を“放課後児童クラブ”と称しています）の指導員研修を開いており、今年の6月は高橋さんから講義を受けました。

正午すぎからの時間では、その高橋ヨシエさんから、次のように挨拶がありました。

全国学童保育連絡協議会の依頼で6月の3日間、いわき市へ支援に行った際に出会ったのが四倉児童クラブです。

実際に行ってみて、子どもたちが厳しい現実化に置かれていることをあらためて感じました。そこで、アミーゴとして自分たちで出来ることがないだろうかということで、7月17日～19日の3日間、四倉児童クラブの人たちを招待して、1日目は（この夏プール遊びが出来なかったの）ホテルのプールで、2日目はディズニーランド、3日目はひばりが丘児童センターで遊んでいただきました。

ここに再現した18畳のところで、四倉児童クラブの人たちは、（1日保育の日は）朝から夕方まで、ず～っと座りっきりで生活をしています。

そんな四倉児童クラブの人たちが、きょうも来てくださいましたのでご紹介します。



きょうは、Iさんをはじめとする指導員3名、保護者4名、お子さん4名が“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”を視察・見学するために、いわき市から来られました。

代表して、指導員のIさんから挨拶がありました。

夏休みの3日間（7月17日～19日）、たくさんの支援をいただき、本当にありがとうございました。また、きょうも参加させていただき、嬉しい限りです。

四倉学童クラブは、四倉小学校近くの公立の幼稚園（いわき市立四倉第一幼稚園）の教室を借りて保育をしていました。ところが、6月25日、ホットスポット的に放射線が高いことがわかり緊急的避難措置の下、



幼稚園と移動することになりました。

その際、幼稚園は教育委員会の管轄なので、教育委員会管轄の建物に移動できました。しかし、児童クラブ（学童保育）は厚労省系の団体なので、同じところには移れず、小学校と老人福祉センターと四倉公民館の3カ所を曜日と時間によって移動しながら保育をしています。

その内、四倉公民館も今月（9月）中には出なければならず、それまでに次の場所を探さなければなりません。

今の場所は、ここに再現してくださった場所よりは少しは広いと思いますが、子どもたちは外遊びもなく部屋の中で遊ぶ毎日です。

これまで行政サイドで準備してもらった場所は、「場所があるだけでも良い」という感じでしたが高橋さんの話を聞いたり、ひばりが丘児童センターにお邪魔して、「そうではないよね。子どもたちは元気に遊ぶのが本当の姿だよね」と思い（**周囲から拍手**）、今は行政サイドに「もう少し安全で子どもたちが楽しく遊べる場所を探してほしい」と要望を出しています。また、地域の皆様にも声がけしながら「もう少し改善していきたいな」と思っています。

きょうは思いっ切り外で遊ぶことができました。また、美味しいものをたくさんいただいたり、いろんな遊びを楽しくやらせていただき、本当にありがとうございました。



四倉児童クラブの子どもたち4人も挨拶しました。

紹介の後、“みんなでつなげよう東北への想い”のおみせに再現された四倉児童クラブを西東京の子どもたちが体験しました。再現されたのは約6畳分の広さです。そこにテーブルを囲んで20人の子どもたちが座りました。ほとんど身動きができません。これでは、子どもたちにストレスが溜まってしまいます。



私（山口）は、四倉学童クラブの皆さんとお話させていただきました。さらに厳しい実態が浮かび上がります。以下、四倉学童クラブの皆さんの話です。

四倉第一幼稚園の後ろは森です。そこに放射線が溜まっていました。しかも、森の下は法面です。だから、共同除去や園舎の除染を行いましたが、雨が降ったりすると、いくら森の木を切っても、森から流れたり、染み込んだ放射線が法面から出て、幼稚園の建物や部屋に入ってきました。だから、戻れないのです。

このように放射線量の高い場所は、いわき市でもほかにもあり、地形によっては、原発から遠い南の方でもあります。それで、共同除去している幼稚園もあります。いわき市長は5月に安全宣言を出しましたが、場所によっては、まだ高いところがあります。

いわき市では毎月、指導員研修を行っていますが、6月は、震災後の心のケアについて、高橋さんから講義を受けました。その時のつながりで高橋さんに「うちの学童に来てください」とお

願ひしたら、高橋さんは2回来てくださって、「これではやっぱり子どもたちがかわいそうだ」と感じられ、いろんな支援をしていただきました。

いわき市内では、学童によって時間を決めて外遊びしているところもありますが、四倉児童クラブの場合、今居るところには外遊びできる場所がありません。

今居る施設は、中に居るだけの場所。部屋だけ借りている場所です。できるだけ被ばくさせたくない親御さんもいますので、学童としても今は外遊びをしていません。だから、部屋で過ごすだけなのです。

子どもの下校時間になっても、今借りている場所（老人福祉センター）に帰ってくることができず、小学校で時間調整をして、時間が経ったら近くの老人福祉センターに移動しています。このように、1日2ヵ所移動しながら過ごしています。

四倉小学校には空き教室がありましたので、子どもたちは移動の場所を考えなくても良かったのですが、四倉中学校が津波の被害にあって、中学校自体が四倉小学校に移動してきました。それで、小学校に空き教室が無くなってしまいました。

この場合、行政は先に中学生を守ります。そして、学童へは「ご自分で場所を探してください」となったのです。指導員の人たちは、大変な思いをして手間をかけて場所を探しました。

それで、老人福祉センターや公民館を借りたわけです。

しかし、下校時間になっても、しばらく小学校で過ごさなければならない子どもたち。小学校には中学生がいますので、中学生に姿を見せないようにします。あっちに気を遣い、こっちに気を遣い……。30分間、小学校の廊下で待っている子どもたち。

久之浜も放射線量高いですが、小学校自体が放射線量の低いところに移動しましたので、学童もいっしょに移動しました。結果、いわき市の中で最も北にある（原発に最も近い）小学校が四倉小学校になりました。

1日の中で移動したり、狭い部屋でジッと座っているのは、四倉児童クラブだけです。

行政には、何回も訴えて、場所を探してもらっているが、なかなかすんなりとはいきません。いわき市では、町としてはかなり復興していますが、放射線に関しては、これからです。

高橋さんからは「いわき市でも“だがしや楽校”を広めてください」ということでしたので、きょうは視察を兼ねて参加しました。

以上が、私との談義の中で出た話です。

四倉児童クラブ47名の子どもたちは、1日狭いところに座っているだけでなく、1日の中で移動もしていたのです。過酷としか言いようがありません。

福島県いわき市四倉は、いわき市の中心・平地区から北東へ約10キロメートルです。

また、この日は四倉児童クラブでアルバイトをされ、今年（2011 年）4 月から東京都で教員を勤めている E さんも向台公園に来られました。



E さんのおとうさんは、おみせの脇で販売している祝い布（写真）を作った方です。



祝い布は大漁旗をアレンジしたものです。売上はすべて支援に充てます。好評で、早い時間に完売しました。

◎久之浜児童クラブ

福島県いわき市久之浜は、いわき市の中心・平地区から北東へ約 14 キロメートル。しかし、現在は高い放射線量のため、学童を含め、学校自体、同じいわき市内の別の場所へそっくり移動しています。

子どもアミーゴ西東京が運営するひばりが丘児童センターから久之浜児童クラブへ、ワンピース全巻などを寄贈したことから、展示だけですが、この日の“だがしや楽校”へ参加しました。



この夏は 1 回もプール授業がなかったいわき市。そこで、久之浜児童クラブに来た子ども 2 人は、ブルーシートで海を作り、魚・わかめ・招待状も作り、自分たちの海で遊び、思いっきり泳いだそうです。ブルーシートは波の音も出せますので、指導員さんもいっしょに泳いだとか……。ちょっぴりせつなく、でも楽しいひとときでした・・・と記されていました。



“みんなでつなげよう東北への想い”のおみせでは、子どもたちが、被災地の子どもたちを励ますメッセージを書き込んだ折り紙に取り組んでいました。



ここからは、子どもアミーゴ西東京の各学童クラブが出したおみせをご紹介します。
はじめに、向台第一のおみせです。

▼マンカラ



マンカラ大会はなかったものの、大勢の子どもたちが遊んでいました。「子どもには勝てないんですよ」というおかあさんの声が聞かれました。

▼メッセージたて



牛乳パックを水に浸けてミキサーで回して、それを固めて和紙にしたものを、学童の玄関で1週間ほど乾かし、それに絵を描いたものです。子どもたちは「夏休みが終わった後、学童で作りました」と話してくれました。

▼ストラックアウト



的当てゲーム遊びです。

▼くぎ人形



おみせの一角では、子どもたちが“くぎ人形”を作っています。1年前もお伝えしましたが、指導員のHさんが紹介した遊びです。Hさんは、プレーパーク活動も行っています。



向台第二のおみせです。



▼絵はがき



▼うちわ



絵はがき、うちわとも、牛乳パックを紙すきして作ったものです。これも夏休みが終わってから、学童で作りました

▼アクセサリ類



子どもたちが学童で作ったローソク・ミサンガ・鉛筆ストラップなどのアクセサリ類が売られています。

▼パチンコ（ビー玉付き）



これも子どもたちが学童で作ったものです。ビー玉付きで売っています。

▼ボーリング

ペットボトルをピンに見立ててのボーリング。私（山口）が見ている限りでは、ピンがなかなか倒れてくれない感じがしました。





今年（2011 年）4 月から子どもアミーゴ西東京で運営することになった“ひばりが丘”のおみせです。ひばりが丘児童センター内に、第一と第二の2つの学童クラブがあります。



ここでも、子どもたちが作ったアクセサリ類などが売られています。のびる棒を紹介する子どもたちの生き生きした笑顔が印象的でした。（写真右）

ただ、ここでちょっと気になったのは、せっかく子どもたちが生き生きと活動していたのに、水を差す大人がいたことです。

のびる棒を振って、頭にぶつかりそうになった時には「あぶない！」と言うだけでは、子どもたちのやる気を奪うだけです。子どもたちにわかるように教えることです。

▼工作のおみせ



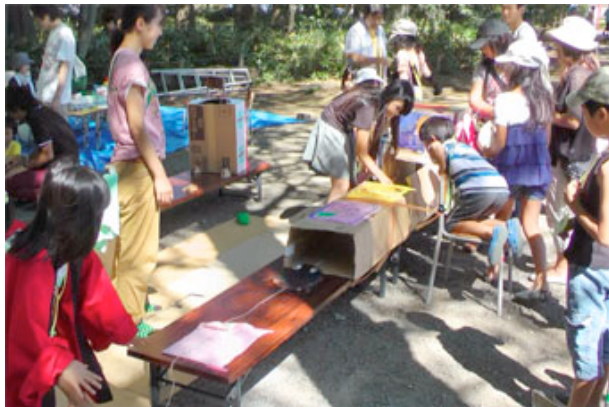
貯金箱、ペン立て、フォトフレームを作っています。

▼ブーメラン

紙ブーメランを作って、飛ばしています。紙ブーメランと言えば・・・山形に名人がおります。



▼ゴキブリたたき



“だがしや楽校”ではめずらしい、なかなか大仕掛けの遊びです。ゴムの力で走り抜けるゴキブリをたたけるか！



▼自然塾：モンキーロープ



これぞ冒険遊びです。ロープの上に何人乗れるでしょうか。ただし、これはプレイリーダーの下で遊びます。



北原学童クラブのおみせです。“きたはら横丁”と銘打っています。気合いが入っています。



“きたはら横丁”では、きたはらアクセサリやさんとして、子どもたちが作ったストラップやコマなどを売っていました。

▼宝すくい



▼的当て



“宝すくい”は、箱の中からボールを1個取ります。ボールの色で宝（何等賞か）が決まります。

▼新聞ジャンケン



新聞に乗ってジャンケンします。ジャンケンに負けると、乗っている新聞を半分に折ります。負けが多くなると新聞が小さくなり乗れなくなります。これで最後まで残った人が勝ちです。

▼ベーゴマのおみせ



私がこの日の朝、向台公園に着いて、準備の様子を拝見していますと、早々に「今回は子どもたちが作ったオリジナルベーゴマも売ります」と私に紹介してくださいました。それだけ子どもたちの思いが込められたベーゴマです。



もちろん、削ったり、色を塗ったりして、自分だけのベーゴマを作ることもしました。



▼ベーゴマ大会

さあ、いよいよ“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”のクライマックス、ベーゴマ大会が始まりました。今年の優勝者は誰に！



はじめは3人で対戦します。オッと、指導員のお兄さんも入り乱れての白熱の勝負が続きます。そして、勝ち残った4人で準決勝戦です。準決勝戦からは2人での対戦です。



《ベーゴマ大会・決勝戦》

いよいよ決勝戦。決勝に残ったのは、4年生のお子さんと指導員のお兄ちゃん。なんでも「因縁の対決」とか??? さて結果は！



4年生のお子さんの優勝！！

向台の指導員たちに胴上げされる4年生。喜んでいるのは、本人よりも指導員たち??
今年も大盛り上がりのベーゴマ大会でした。

▼駄菓子屋



ポイントやスタンプをもらった子どもたちが次々にやってきて、最後までにぎわっていた駄菓子屋さんです。



▼フィナーレ

最後に田無高校・ダンス部の生徒さんに、もう一度ダンスパフォーマンスを披露していただきました。

ダンスに、おみせのスタッフに、大活躍の生徒さん。周りから温かな拍手がおくれ「アンコール」の声が挙がります。そこで、みんなで“マル・マル・モリ・モリ!”を歌い踊りました。



四倉児童クラブの子どもたちも一緒になって、歌い踊りました。楽しいフィナーレでしたが、心打つものを感じるシーンでもありました。



《振り返り》

今回の“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”の第一印象は、昨年より数段スケールアップした、パワーアップしたことです。

《はじめに》でもご紹介しましたが、NPO法人子どもアミーゴ西東京は、今年（2011年）4月から、これまでの4つの学童クラブの運営に加え、ひばりが丘児童センターと、その中に開設された2つの学童クラブの運営を始めました。つまり、NPO法人子どもアミーゴ西東京自体が事業拡大したわけで、それに伴って“だがしや楽校”がスケールアップ・パワーアップするのも当然かもしれません。

しかし、1つのNPO法人だけで、これだけの規模で“だがしや楽校”を開く例は、ほかに見当たりません。そのパワー・原動力・実行力には、脱帽するしかありません。

子どもアミーゴ西東京の理事さん、指導員の方々、地域の人たち、おとうさん・おかあさんたち、そして子どもたちと、皆さんが一生懸命になって活躍していたことも印象に残りました。

各学童のおみせには、子どもたちが作った数多くの商品が並んでいました。そのほとんどが夏休み明けから作ったとのこと。子どもたちのパワーには、あらためて脱帽です。

ただ、子どもたちが準備の段階ではどのように感じ、“だがしや楽校”を終えてどのように感じたのか、よく検証することが大切かと思います。すなわち、本当の意味での「子どもが主役」になっていたのか、ということです。

私（山口）がこのところ感じるのは、安易に「子どもが主役」という言葉を使われることです。それは、「子どもが主役」と言いながら、大人の視点での「子どもが主役」になってはいないか、ということです。

大人の間では、その日の内に“振り返り”が行われていました。それと同様に、子どもたちの声を聞くことです。子どもたちは毎日学童に通います。だから、いつでも子どもたちの声を聞くことができます。でも、それが甘えにつながります。

“子どもアミーゴ西東京”では、私が申し上げるまでもなく、きちんと子どもたちの声を聞かれていると思いますが、そのシーンを確認することができませんし、同様の取り組みを行うほかの人たちのためにも、あえて書かせていただきました。

子どもアミーゴ西東京の地域でのネットワークの広さも感じました。今年は“風のすみか”や“くるみえ”そして“西東京子育てコム”などが“だがしや楽校”に初参加しました。

田無高校の生徒さんたちの活躍ぶりも忘れてはなりません。

地域でのネットワークの広さを感じただけではありません。今年は“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”としても一皮むけた印象があります。

これも《はじめに》でお伝えしましたが、東日本大震災という非常に悲しむべき事態が発生した時に、“子どもアミーゴ西東京”では、いち早く、当時の4年生（現5年生）が中心になって、被災地の子どもたちへの支援活動に動きました。

4月には会津若松市で“だがしや楽校”を開くなど、ほかの地域との交流を展開し始めました。

それが、福島県いわき市の四倉児童クラブとの交流につながったと思われます。きっかけ自体は、高橋ヨシエさんの尽力によるものですが、その後の継続した支援&交流活動は、“子どもアミーゴ西東京”の活動が、さらなる広がりを見せていることを示しています。

それにしても、四倉児童クラブの現状をお聞きした時に、さすがに私（山口）も言葉を失いました。

西東京芸術文化市民協議会のYさんとも話しましたが、私たちが認識しなければならないのは、被災地・被災者・避難者が置かれている現状については、私たちが知らないこと・私たちに知らされていないことが無限にあることです。

そういう状況の中で大切なのは、私たちができることをきちんと掌握し、責任を持って支援することです。

「私たちができること」とは、できることに限界を設けるのではなく、「一人でも多くの人に対して支援しよう」という意志を持つことです。そのためには、一人で、あるいは1つの団体で活動するのではなく、ネットワークにより、みんなで力を合わせることです。

そういう意味でも、“子どもアミーゴ西東京”に於ける地域での広がり、他地域との交流の展開は注目に値します。

ある指導員の方から「山口さんは、きょうの“だがしや楽校”の中で、どのおみせが印象に残りましたか？」と聞かれました。

私は答えに困ってしまいました。その理由はいくつかあります。

ひとつは、みんな素晴らしいおみせだったからです。子どもたちが丹精込めて作った品々はみんな魅力的でした。実際にも数多く売れていました。また、アイデアいっぱい、創意工夫いっぱいだった遊びのおみせも、みんな良かったです。そう、みんな良かったから、答えに困ったのです。特に今回は、おみせの数も増え、「どのおみせが・・・」と聞かれますと、本当に迷ってしまいます。

それから、“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”は、子どもアミーゴ西東京の活動を、あるいはそれぞれの学童を、地域の人たちに「みせ」る“だがしや楽校”であることも、「どのおみせが・・・」と聞かれて、答えに迷ってしまう背景です。

地域と共に歩むNPO法人子どもアミーゴ西東京を象徴するのが“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”なのです。

一方で、「どのおみせが・・・」と聞かれたことに視点を当てて考えますと、検討の余地がありそうな“だがしや楽校”でもありました。

1年前と比較して、各学童の顔が見えるようにはなりました。“きたはら横丁”などは、その象徴です。しかし、まだちょっと弱いとも感じました。それは、どういうことでしょうか。

確かに、子どもたちが丹精込めて作った品々を紹介しながら販売していましたし、遊びも工夫されていました。しかし、そこで「何を伝えたいのか」という点で弱さを感じたのです。

それぞれの学童には特徴があるでしょう。また、子どもたちが丹精込めて作った品々には子ど

もたちの思いが込められているでしょう。そういうものを「みせ」る工夫があると、もっと良かったのではないかと、思ったのです。

特に、これだけパワーアップし、おみせの数も多くなった中、これからは「みせ」方の工夫も考えていかれると、なお素晴らしい“だがしや楽校”になると思います。

それでは、「みせ」方の工夫とは何でしょう。ひとつのヒントを申し上げます。各学童のおみせを拝見しますと、結果を「みせ」ている感じで、「プロセス」があまり伝わってきません。だから私には、「みせ」方の弱さを感じたようです。

今回はおみせの数が多くなったため、ひばりが丘のおみせは、ほかのおみせとは公園の通路を挟んで少し離れたところにレイアウトされました。ここでは、場内アナウンスの声も聞き取りにくい状態でした。

ひばりが丘で“ゴキブリたたき”ゲームをやっていたことに気付かなかった人もいて、規模が大きくなったことによる課題も少し出たような感じです。

そうであれば、私などは大胆な発想をしてしまいます。

聞くとことによりますと、子どもアミーゴ西東京では“だがしや楽校”を年2回行いたい、とされているようです。それは「もう1回は、冬にひばりが丘児童センターで行う」とのことです。

そうであれば、秋に向台公園で開く“だがしや楽校”は向台公園に近い学童が中心になっておみせを出す、冬にひばりが丘児童センターで開く“だがしや楽校”はひばりが丘児童センターに近い学童が中心になっておみせを出す、おみせを出さない学童はお客さん（この「お客さん」にも意味があります）として参加し、“だがしや楽校”を盛り上げる・・・という“だがしや楽校”でも良いのではないかと考えます。

つまり、子どもたちにとっては、1回はおみせを出す側、1回はお客さんとして参加することで、まさに社会を学ぶことにつながります。いろんな立場を経験することで、視野の広い人間に育っていくわけです。

繰り返しますが、NPO法人子どもアミーゴ西東京は、今年度からひばりが丘児童センターと2つの学童の運営を始めました。これで学童は6カ所となりました。すなわち、子どもアミーゴ西東京としても、事業を拡張されたわけですので、“だがしや楽校”の開き方についても、新たな展開につなげるチャンスではないかと考えます。

NPO法人子どもアミーゴ西東京は、“だがしや楽校”によって（もちろん“だがしや楽校”だけではありませんが）、地域とつながりました。地域でのネットワークが広がりました。地域外との交流も展開しました。

“だがしや楽校”を利活用することで、こんなに良いことがあることを、NPO法人子どもアミーゴ西東京は示してくださいました。

すなわち、私が展開している“だがしや楽校”普及事業に於いて、とても力強い存在であり、大きな支えになっているのです。

なぜなら、今年度の“だがしや楽校”普及事業では、“だがしや楽校”に取り組んだり、“だが

しや楽校”を開いたり、“だがしや楽校”を利活用することで、どのような効果があったのか、どのように派生していったのか、どのように地域に浸透していったのか、といった視点で取材・検証しているからです。

そういう意味で、NPO法人子どもアミーゴ西東京の皆様には、おおいに感謝したいと思っています。

今年も、NPO法人子どもアミーゴ西東京の皆さんに大変お世話になりました。
ここにあらためて御礼を申し上げて、報告をおしまいにします。

企画・制作・編集・文責
山口充夫
だがしや楽校コーディネーター